

越田会長記者会見要旨

日 時：平成16年2月18日（水）午後4時00分～午後4時40分

場 所：フロンティア21記者会見場

出席者：越田会長、高橋副会長

高橋副会長から、理事会の審議事項の概要について報告が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

本日、協会機能のあり方に関する特別委員会の議論が白熱し、会見がそれに伴って遅れたということであるが、本日の委員会でどんな議論がなされたのか教えていただきたい。

（越田会長）

時間に遅れて申し訳ない。白熱したということではない。委員の皆様の意見に伴って、その意見をベースにして協会事務局が案を出す。その案を出したのに対して、またご意見がある。そしてまた案を出すということである。まだ全部が全部、細かいところの案を出せるまで話がいつていない。私の感じでは、大枠は大体合意の方向に話が進んでいる。議論そのものは非常に順調に進んでいる。ただ、なかなか具体的な話を申し上げられないのは、小さいことで異論が出てくると、またそれが全体に及ぶということになる。そういった意味で、ここで話をすると、話がひっくり返る可能性があるので、申し訳ないが、現時点では、先ほど副会長が話したように、業態別、地区別に意見を吸収する組織を設置するという方向で進んでいるということである。

(記者)

東証取引参加者協会でも組織の話をしており、公式かどうか分からないが、いずれはそういうことも含めて話し合われるという風に捉えておいた方がいいのか。それとも、それとは別にそれぞれ検討を進めていくということでのいいのか。

(越田会長)

東証取引参加者協会が先日行ったアンケートを見ても、統一した団体、業界の活動としては統一すべきだという結果が出ているようである。我々の議論そのものも、今までの意見が届かない、考え方が届かないところを何とか是正しようということで、業態別、地方の意見を吸収するという方向で話を進めている。まだもう少し時間がかかると思うが、この話の結論が出た段階で、会員の皆様がどのように判断されるのかということだろうと思う。すなわち、会員の皆様が我々の今議論している結論に対して、どのような判断をされるのかということだろうと思う。それが非常に不満であれば、なかなか統一も難しいということになるであろうが、理解が得られれば統一の方向になると思う。

(記者)

東証の次期社長の人事選考の件である。社葬の日程も決まり、人選も行われると思うが、協会としての意見集約はしていないかもしれないが、協会の会員の声としてはどのような方が望ましいという声が多いのか。また、会長自身としてはどのような形で選ばれ、どういう人が選ばれるべきであると考えているのか。

(越田会長)

私は、この問題については、東証に指名・報酬委員会もあるので、コメントする立場にはないと思う。東証自体が主体的に決めるべきであると思う。業界がどのように考えているかについては、東証取引参加者協会が先日あのような要望書を提出しているが、株主として株式を公開する前においては、経営といった視点を重視した要望が出てくるというもの、ある意味では当然のこと

と考える。ただ、私個人としては、株式の公開もあるが、それに加えて激しい市場間競争も国際的に繰り広げられているので、そういった中で市場機能を強化する必要もあるし、より魅力的な市場を作る必要もあるし、そういった観点からは、やはりリーダーシップがあり、判断力がある方がふさわしいと考える。

（記者）

東証社長の人事の件である。世の中では、官僚がいいのか民間がいいのかという話が出ているが、会長はどのように考えるのか。

（越田会長）

人選に当たっては、能力のある方を探すわけであるので、あくまでも幅広く人材を求めるべきであると考えている。

（記者）

人物本位でということで、民間、官僚を問わずと言うことでよいのか。

（越田会長）

そのように考えている。土田社長も業界が要望して社長になられ、しかも赫々たる実績を挙げられた。国際的な活動はもちろんのこと、株式会社化、そして株式公開に向かって実績を挙げられたので、特に民間、官僚がどうということではなく、能力がある方を幅広く求めるということでいいのではないかと思う。

以 上